

森林環境保全総合対策事業（拡充）

【平成25年度概算決定額 119,290（167,299）千円】

事業のポイント

多様で健全な森林環境の保全のための施策を総合的に推進するための情報の収集・分析、技術の開発を実施します。

<背景>

（世界遺産に関する状況）

- ・我が国の世界自然遺産地域について、森林の世界遺産としての価値の保全及び向上を図るためには、民有林と国有林ならびに関係省庁との連携を図りつつ、必要な調査や対策の検討を推進する必要があります。

（花粉発生源対策に関する状況）

- ・国民的な広がりを見せているスギ等の花粉症について、花粉発生源対策をより効果的に推進していくためには、都市部への花粉飛散に強く影響している地域の推定などを行い、対策の重点化を進める必要があります。

（森林被害対策に関する状況）

- ・シカ等野生鳥獣による食害等に対応するため、森林被害対策の充実を図る必要があります。また、近年、カシノナガキクイムシが媒介するナラ菌によってナラ類等の樹木が枯損するナラ枯れ被害が発生しており、被害防止技術を開発する必要があります。

（優良種苗供給に関する状況）

- ・東日本大震災により大きな被害を受けた海岸林等森林の再生のためには、松くい虫に抵抗性のあるマツをはじめ地域の自然環境に適応した多様な樹種の苗木の安定供給が必要です。また、立地条件に応じた造林のための樹木の生育環境への適応性の評価の取組を進めることが必要です。

政策目標

森林・林業基本計画等に基づき、多様で健全な森林環境の保全を図り、森林の有する多面的機能の発揮を目指します。

<内容>

ア 世界遺産の森林生態系保全管理の推進

我が国の世界自然遺産について、世界遺産委員会等の決議等に基づき必要な調査等を実施します。また、世界自然遺産の候補地である「奄美・琉球諸島」の森林生態系の保全管理に当たっての課題の整理及び必要な対策等の検討を実施します。

イ スギ・ヒノキ花粉の飛散予測等の推進

スギの花粉飛散量予測の精度向上を図るためのスギ雄花着花状況調査を実施するとともに、ヒノキ花粉発生源対策としてヒノキ雄花観測技術の開発を推進します。

ウ 森林被害対策の推進

新たな鳥獣被害防止技術、被害を受けた森林の復元技術及び効果的な捕獲技術の開発・実証を実施します。また、ナラ枯れについては、様々な防除技術の効果を検証するとともに、これらを組み合わせて地域の状況に応じた総合的な被害対策を構築します。

エ 森林再生に向けた優良種苗供給の促進

抵抗性の強いマツ等優良種苗の生産や広葉樹の種苗生産・流通の取組等を実施するとともに、造林木の生育環境への適応性の評価を実施します。

<補助率>

定額

<事業実施主体>

民間団体

<事業実施期間>

ア 平成25年度～29年度

イ 平成21年度～25年度

ウ 平成22年度～26年度

エ 平成24年度～26年度

[担当課：林野庁研究・保全課]